

ありがとう

代田中・3 大西 里奈

七月二十五日

私にとって最後の夏

華やかな舞台に立つ最後のチャンス

いつもより研ぎ澄まされた空気に

私たちは飲みこまれそうになった

つくり上げられた音楽は

鮮やかな響きをもって

その場を包みこむ

そして

人々に感動を与える

私たちにそれはできていたのか

不安の種は大きくなるばかりだった

一人欠けたら成立しない吹奏楽

一人一人の音量

一人一人の音色

一人一人の表現

全員でやるからこそその難しさに

三十人が苦しんでいた

そして迎えた七月二十五日

それぞれにいろいろな思いがあった

三十個の思いがあるなか

一人一人の音を聞く
三十人全員忘れていなかった

最後の舞台がもうすぐ始まる

七分間で終わる最後のチャンスは

三年間の全てを詰めこもうと

決めて上がった舞台

パサッ

指揮者が手を振り上げた

いよいよ始まる

音が鳴り始めると同時に

最後の七分間がスタートした

周りの音に耳を澄ませる

いつもよりもすぐ演奏が生き生きしている

心から全員楽しんでると感じた

そして最後の一音を吹いた瞬間

三年間の頑張りが音に乗り

会場を包んだ

三年間を終えた私たちの表情には

それぞれの思いが感じられた

互いに励まし

互いに褒め合った

それは今まででいちばんよい光景だった

私たちの夏は七分間で幕を閉じた

最後まで全力で演奏できた仲間に
ありがとう
そうやって伝えたい